

## 巻頭言

\*

# 最近感じていること



本田まりこ

2022年もすでに4か月も経過してしまいましたが、2022年は多くの人にとって激動の年として記憶されることになったと思われまます。それは何かというと新型コロナ蔓延とロシアのウクライナ侵攻です。戦後生まれの戦争を知らない私にとって、1950年頃公開された『禁じられた遊び』や『ひめゆりの塔』などの映画を通して戦争の怖さを知りました。また、その頃訪れた知床の住民の方からロシアの侵攻により北方四島をとられてしまった話やロシアの巡視船がすぐ近くまできており、夫は捕され、まだ帰ってこないなど子ども心にゾッとした記憶があります。米ソの長期間の冷戦後、米ソは互いに譲り合い、平和な世界をつくるのに努力をしているものと思っていました。重苦しいニュースにあふれ、信じがたいことばかりが報道され、人とは何と残酷な生き物だと痛感されます。カトリック系の小学校に通学していましたが、当時の授業で中国は眠れる獅子であり、その後巨大な国となるが、第3次世界大戦後、ロシアが世界を統一させ、初めて世界平和が訪れるであろうという予言がカトリックにはあると習いました。これが現実になるのかどうか非常に不安に思っています。

さて、東京慈恵会医科大学皮膚科を定年退職後、今年の6月で8年目となります。勤務中は、調子が悪くてもなかなか他科に受診することができず、開業したら働くヒトのために時間を少しでも長く開院していようと考えていました。いざ開業してみると働き方改革とかで月曜日は19時、その他の火曜日と金曜日は18時までとなってしまいました。学生時代は無医村研究会に入部し、夏休み返上で岩手県岩泉町の各小学校で医療活動を行っていた私にとって物足りない感じがしております。医局勤務中は、1時間睡眠、40歳代以降では3時間睡眠で育児や研究に没頭しており、今の私は何をやっているのか

な一と歯がゆい感じがしております。

この7年間で発見したことは、スギ花粉症のヒトは陰部の湿疹を合併しやすいということです。近医の産婦人科の先生が沢山の陰部湿疹の患者さんを紹介してくださり、検索してみるとほとんどの方はスギIgE抗体が高値を示し、スギ飛散時期と一致していました。無論日本人のスギ花粉陽性率は75%といわれていますので、無関係かもしれませんが、多形紅斑やベーチェット病などの疾患のように口腔粘膜と陰部粘膜病変は関連があるのかもしれませんが。さらなる検索が必要と思われまます。

また、開業期間中にまとめたデータを論文にしようと試みていますが、投稿するにはまず倫理審査を受けなければなりません。データをまとめるだけなので、簡単な書類で大丈夫かと思っていましたが、甘かったです。以下の項目をすべて埋めなければなりませんでした。

1.研究の目的及び意義 2.研究の方法 3.目標症例数及び予定期間 4.研究対象者の選定方針 5.研究の科学的合理性の根拠 6.インフォームド・コンセントを受ける手続き等 7.個人情報等の取扱い 8.予測されるリスク及び利益 9.資料の保管及び廃棄の方法 10.研究資金源と利益相反 11.研究結果等の取扱い 12.研究対象者に緊急かつ明白な生命の危険が生じている状況における研究を実施しようとする場合 13.重篤な有害事象が発生した際の対応 14.健康被害に対する補償 15.研究対象者への研究実施後における医療の提供（介入を行う研究の場合） 16.研究対象者から取得された試料・情報の二次利用についてなど、これらについてすべて記載し、やっと倫理審査を通過しました。倫理でこんなに個人の保護や安全を訴えているのに、戦争は矢張りむなしく、憤りを感じまます。早く、平和な日が訪れますよう祈るばかりです。  
(まりこの皮膚科)